

至誠通天

(至誠、天に通ず)

白田中学校
校長室だより No. 2

平成29年6月20日(火)

梅雨入りをしたというのに比較的好天に恵まれる日が多いように思います。植物にとっては恵みの雨が欲しいところですが、しばし我慢というところでしょうか。また、梅雨は私たち人間にとってもなくてはならないものであり、空梅雨にでもなれば夏本番の時期には水不足となり、日常の生活に大きな影響が出てきます。

さて、2週間ほど前のことですが、第1回目の白田中学校コミュニティスクール推進委員会が本校で行われました。保護者の皆様方も、コミュニティスクールという言葉はどこかで耳にされたことがあるのではないかと思います。この活動の目的は、学校と保護者、地域が一体となって子どもたちを育てていく、というところにあります。そして、この委員会での取組は各校それぞれに自校の特色を生かしつつ推進されていくものであります。白田中学校では6名の方々に推進委員になって頂き、活動を始めることになりました。誰が、どの場面で、どのように関わって(指導して)いくかといった具体的なことにつきましては今後明確にしていかなければいけません。学校の先生方だけではなく、地域の方々にも応援して頂き、さらに色々なことを教えていただけるなんてこんなにありがたい話はありません。コミュニティスクールの体制ができあがれば、まさに地域と一体となった白田中学校になります。推進委員の皆様を中心に企画がなされますが、実際の場面では保護者の皆様方、地域の皆様方の応援、サポートがとても重要になってきますので、なにとぞよろしくお願い致します。

地域を知り、地域を語る人に

いろいろな場で、「私は白田の下越出身です。この白田中学校の卒業生です」という話をさせて頂いています。小学校は五稜郭の中にある田口小学校を卒業しています。小学生の頃は、青沼小学校がすぐそこに見えるのに、どうして自分は一つ山の向こうにある田口小学校に通うのだろうか、と子どもながらに疑問を持っていました。小学校まで家から片道3kmほどありましたでしょうか。中学校に進学しますと今度は片道1kmちょっとです。やはり、学校の近さというものを実感しました。

思い起こせば遠い、近いということが真っ先に浮かんでくるわけですが、もう一つ思うことは小中9年間で旧白田町内をよく歩いたものだなあ、ということです。そして歩いたことで、発見すること、驚くこともたくさんあったように思います。つまり、白田町の一部ではありましたが地域を知る機会がたくあったということです。

中学校を卒業しておよそ30年、私は教師の道を歩みその頃佐久城山小学校に勤務をしていました。佐久の社会科同好会に入り、多くの先生方と共に授業づくりについて学んでいました。同好会の研究主任をしていたことですが、中学校の研究授業を白田中学校で行うことになったのです。そして、扱う内容が「プルーン栽培」ということになり、プルーン栽培を営むBさんをお願いをし、農園を見学させて頂いたりプルーンに関わる多くのお話を聞かせて頂いたりしました。多くの苦労があった中で、生き生きと語られていたBさんの姿はしっかりと覚えています。そして、プルーン栽培が当時、全国的に見ても佐久地方、特に白田が盛んで、生産量出荷量共に群を抜いていた、ということがわかったときは大変な驚きでした。

自分の住む地域（故郷）についてまだまだ知らないことがたくさんある、ということを改めて実感した瞬間でしたが、一方で臼田の自慢話を発掘したという喜びを味わうことができました。もし、「臼田ってどんなところ？」と聞かれたら、いくつか紹介する中でプルーンの話は必ず話そうと思っています。

もの、ひと、ことに関わって臼田にはまだまだたくさんの自慢できる話がありそうです。私も探究心を鈍らせることなく、アンテナを高くして情報収集に頑張りたいと思っています。

佐久大会を終えて、そして東信大会へ

8日、9日と佐久大会が行われ、臼田中学校の運動部は全て東信大会に進むことになりました。保護者の皆様方からは熱い応援を頂き、本当にありがとうございました。生徒個々によって持っている力をどのくらい出すことができたか、それぞれ異なってくると思いますが、日々の練習の積み重ねがあつてこそその結果だと思います。大会もステップアップしていけば力も拮抗し、厳しい試合を強いられることとなります。子どもたちには厳しい練習を積み重ねてきた自分を信じて堂々と試合に臨んできて欲しいと思います。

4月の部活動発足の会で子どもたちに話したことです。現横綱の稀勢の里が新横綱として迎えた3月の春場所で見事V2を達成したときのインタビューで「自分でも見えない力が出たような気がする」といった話をしていました。この“見えない力”こそが日々の厳しい練習の賜であり、この力が出るかどうかで結果は大きく左右される・・・、インタビューを聞いていてこんなことを思いました。

“見えない力”を存分に秘めた臼田中学校の子どもたち、24日、25日の東信大会での大健闘を期待したいです。

※校長は、東信大会2日間とも女子テニスを担当している関係で各部の応援に行けません。残念です。

生徒総会 ～みんなが一つになる～

質疑、答弁、そして意見交換が立派にできました

当たり前のことですが、学校の主人公は、生徒たちです。その生徒が、自分たちの学校生活を明るく、楽しく、そして爽やかに送ることができるようにするために、生徒会という学習（活動）の場があります。ここでは、自分たちの生活の場は自分たちで創っていくといういわゆる自治について学ぶこととなります。先月の2日に、この自治の方向について理解を深め合い、共有するための生徒総会が行われました。本年度の生徒会のスローガンは、活発な討論会を経て「**聲 ～全校一丸 我らの聲で 学校を創る～**」に決まりました。総会



生徒総会の様子

を終えて既にだいぶ時間が経っているわけですが、一日一日の生活の中には、各委員会の活動によって成り立っている場面がたくさんあります。言い換えれば、総会で承認された各委員会の活動により学校生活がスムーズに行われている、ということです。落ち着いた学校生活の奥には、やはり生徒の手によって自主的に営まれる生徒会活動があるのです。

岩松信吾生徒会長のもとで、楽しく通える臼田中学校、爽やかな風が行き交う臼田中学校、心落ち着けて安心して学べる臼田中学校の実現に向けて、一步一步進んでいってくれることを願っています。

（校長 浅川 桂）

先日、校長室に一名の来客がありました。その方のお言葉です。「臼田中学校は、落ち着いているねえ。きっと生徒がしっかりしているんだなあ。」 嬉しい、ありがたいお話です。臼田中学校では、日頃より生徒会の活動を大切にしています。きっと日々の生徒会活動の積み重ねが“落ち着いている”状況をつくり出しているのだと思います。まさに生徒全員による集団としての教育力が着実に高まってきていることの証ではないかと思います。